

生き物を育てよう

時 期 春～夏

時 間 3時間

場 所 学校（教室）、家庭

- 身の回りの生き物を見つけたり、飼育したりする。
- 生き物に合ったすみかを調べたり、考えたりする。

ねらい

親しむ ・身近な生き物を採集して育てる活動を通して、積極的に生き物に触れようとしたり、愛情をもって生き物に接したりする態度を育てる。

活動展開例

第1学年 生活「いちねんせいになったよ
～がっこうたんけんにしゅっぱつだ～」

準備物	・虫かご ・水そう ・ポリ容器 ・石 ・砂 ・小石 ・小枝 ・エアポンプ ・エアフィルター ・生き物の餌 など		
	時間	活動内容	留意点
展 開	5分	○どんな生き物がいるのかを予想する。	・どんな生き物がいるかを予想してから出かけることで、見通しをもって活動できるようにする。
	40分	○生き物探しに出かける。	・持ち物や活動上の注意点を確認し、安全に活動できるようにする。
	45分	○見つけた生き物の育て方を調べながら育てる。 ・生き物の育て方を本や図鑑で調べてみたり、生き物に詳しい人に聞いたりする。	・命の大切さを道徳の時間〔内容3-(2)〕と関連付けて考えさせていき、責任をもって飼育していこうとする意識やよりよい育て方を調べようとする意欲を高めていけるようにする。
	45分	○調べたことや見つけた場所を思い出しながら、かごや水槽に生き物のすみかを作る。	・餌だけではなく、生き物にとってのよりよい環境を考えていけるように助言し、生き物と環境の関わりに目を向けられるようにする。
	事後	○生き物の様子を継続的に観察し、紹介し合う。	・自分が育てている生き物の情報交換を行い、他の生き物にも目を向けていけるようにする。 ・様々な生き物に触れたり様子を知ったりできる環境を整えていき、それぞれの生き物の環境に合ったすみかを考えられるようにする。また、そのことが身の回りの自然環境を見直すきっかけになるようにする。

低学年



活用ガイド

○ワンポイントアドバイス

- ・自分が見つけてきた生き物を飼育していくことで、愛着をもって関わられるようにする。
- ・個別の飼育活動で終わることのないよう、学級や学年で「生き物コーナー」などを設置する。そうすることで、多様な生き物に触れることができるようにするとともに、児童相互の積極的な交流を促す。
- ・情報交換のための掲示コーナーを設置し、互いの生き物の様子を記録したカードや写真などを掲示できるようにすることで、生き物への興味・関心を高めるきっかけにする。

○活動の様子

低学年



校庭の隅の方にこんなにたくさん
ダンゴムシがいるんだね。
暗い場所が好きなのかな。

土は足りているかな。
葉っぱや小枝を一緒に入れてあげると
かくれるところができるね。



○発展

- ・身近な生き物の飼育活動を、生活科の小動物の飼育へとつなげていくことが考えられる。また、小動物と合わせた生き物コーナーを設置していくと、飼育活動への子どもの思いを高めていくことができる。
- ・道徳の時間〔内容3-(2)〕と本活動を関連付けると、より効果的である。
- ・総合的な学習の時間と関連させ、ビオトープ作りなどを行うことも考えられる。

○活動にあたって参考となる文献

- ・木村 義志 「学校で飼う身近な生き物—飼い方観察完全ガイド1～8」 学習研究社（2007）
- ・木村 義志 「机の上で飼える小さな生き物」 草思社（1999）

育てる生き物の例

ザリガニを育てよう

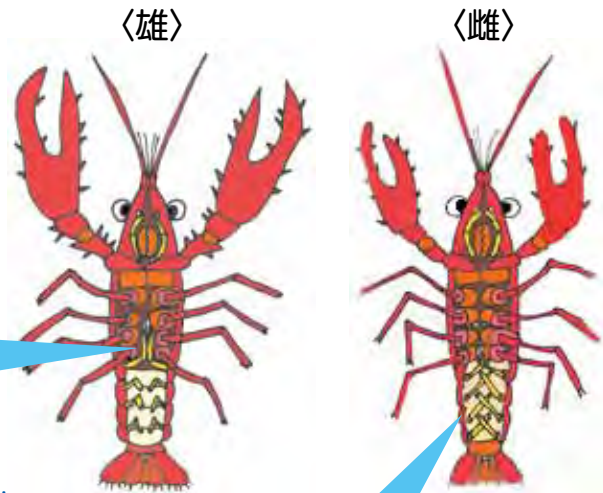
○ザリガニを育てるのに必要なものの例

飼育用の水槽（水槽以外にも形状の似たガラスの容器やプラスチックの容器などでの代替も可能）
 エアーポンプ
 ザリガニが隠れる物（石、植木鉢のかけら、小枝などを組み合わせて置く）
 水草
 石

○ザリガニのエサの例

市販の専用飼料
 スルメ
 煮干し など

雄は、雌に比べてはさみが大きい。この部分の脚（生殖器）が長くなっている。



○ザリガニを飼育する水槽の中の様子の例



○育てる時の注意点

- ・ 共食いに気を付ける。
 - ➔ 同じ水槽に2～3匹程度までの飼育とする（水槽の大きさによって違う）。
 - ➔ ザリガニが隠れられる場所を作る。
- ・ 気温や室温に気を付ける。
 - ➔ 室温と水温の差が大きくなるようにする（水温が適温になっていても、室温が低いと命を保つことが難しい）。
- ・ 小動物と一緒に飼わない。
 - ➔ 生きた小動物（メダカ・ドジョウ・ヤゴなど）と一緒に飼うと食べてしまうので気を付ける。

低学年



ダンゴムシを育てよう

○ダンゴムシを育てるのに必要なものの例

飼育ケース（ペットボトルを使用することも可能）
土（ダンゴムシを採取してきたところの土）
小石やコンクリートのかけら

○ダンゴムシのエサの例

枯れ葉や落ち葉
キャベツやキュウリなどの野菜
魚粉
チーズ など（いろいろなものを食べる）

雄は、全体が黒色で、
背中の斑点が少ない。

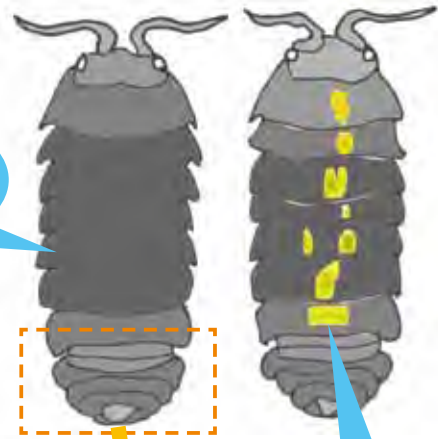
○ダンゴムシを飼育する容器中の様子

コンクリートのかけらを入
れる（エサになる）。



〈雄〉

〈雌〉



雌は、
背中の斑点が、
雄よりもはっきり
している。



背中の斑点の違いが
はっきり分らない場合は、
尾に近い部分を腹側
（脚がついている側）から見るとよい。
雄には、2本の生殖器がある。

○育てる時の注意点

- ・もとの環境になるべく近い状態で育てる。
→ダンゴムシを採取したときに、その場の土と一緒に採取して飼育容器の底に敷くようにする。
- ・共食いに気を付ける（親が子どもを食べることが多い）。
→成虫と幼虫は別々の飼育ケースで飼う。
→メスの腹側が黄色っぽく膨らんでいたら、この時点で別の容器に移す。
- ・カルシウムの補給ができるようにする。
→小さい時は頻繁に脱皮するのでコンクリートのかけらや小石を入れておくとよい。
- ・飼育容器を清潔にする。
→飼育容器やその周辺の衛生を保つために、餌はこまめに取り換える。
- ・土の乾燥を防ぐ。
→霧吹きなどで土に湿り気を与える。

低学年

